

竜王中学校 学校関係者評価書

令和8年2月12日(木)

竜王中学校学校運営協議会作成

学校関係者評価(学校運営協議会の中で実施)

実施日:令和8年2月10日(火)

出席者:(学校運営協議会委員) 川口 優一 小宮山 雅文 千野 雄広 伊藤 毅
(学校側) 坂本 公彦 林 健一郎 窪田 昌彦

I 学校側から提案された内容

①令和7年度職員自己評価書、②令和7年度生徒アンケート集計結果、③令和7年度保護者アンケート集計結果(①、②はR6~R7を比較できるもの、③は回答傾向がわかるもの)

II 協議された主な内容

職員自己評価書及び生徒アンケート集計結果、保護者アンケート集計結果をもとに、学校の現状(成果と課題)や取り組み等について情報を共有・協議し、学校・家庭・地域の連携協力により学校運営の改善にあたる。

〈学校関係者評価書〉

I 全体評価

自己評価、保護者アンケート、生徒アンケートのいずれにおいても肯定的な回答が多く、肯定的評価が昨年度より増加した項目もあることから、総体的に学校運営が改善されていることがうかがえる。

個別の項目を見ると、以下の成果が見て取れる。

- ・教職員の自己評価において、多くの質問項目で肯定的評価が多かったこと。
- ・多くの質問項目において、職員・保護者・生徒の回答が同じ傾向にあり、三者が同じ課題意識を持っていると推察できること。
- ・あいさつを大事だと捉え、実践する傾向が維持されていること。

一方で、以下のような課題点が見られる。

- ・自分で計画を立てて勉強をしていると回答する生徒が減少していることから、家庭での学習について、取り組ませる必要があること。
- ・生徒がスマホやタブレットに触れる時間が増加していることや、読書に取り組む生徒とそうでない生徒の両極化が進行している状況から、家庭学習も含め、家庭での過ごし方について保護者と課題点を共有し、改善を図る必要があること。
- ・職員の多忙化は改善傾向にあるものの、職員の意識改革に課題があること。
- ・不登校生徒の数は、個々の欠席数を見ると減少しているが、全体としての不登校者数は減少していないことから、より一層、個に寄り添った教育が必要であること。
- ・保護者アンケートの回答率が下がったことから、質問内容や方法について、改善が必要であること。

II 個別の項目に対する意見

部活動の地域展開についての意見

- ・市内でも、クラブチームの立ち上げの動きがみられるが、クラブチームは費用負担が心配である。金銭的な事情や保護者送迎の問題で子供たちの活動の機会が失われることのないよう、地域展開を進めてほしい。
- ・小学校の間は金銭的な事情や送迎の問題でスポ少などに通わせられなかったが、中学校では部活動に参加したいと考えている保護者、子どももいる。部活動をすることが登校のモチベーションとなっている生徒もいることから、学校での何らかの活動は存続してほしい。

SNS等をめぐるトラブルに関する意見

- ・生徒から、毎月聞き取りを行い、トラブルに巻き込まれていないかを確認していると聞いて安心したが、世間では生成AIの広がりとともに、軽い気持ちで他者を傷つける投稿からトラブルになる事例が増えていると聞く。学校としての対策にとどまらず、家庭への啓発も含めて、取り組みや注意喚起を強化する必要があるのではないかと考える。
- ・保護司による出前授業でいじめの話を取り上げているが、ネットを介したいじめも授業の題材にしていきたい。

III 今後の課題として意識されたいこと

不登校の状況について

- ・生徒のための居場所(ふれあい教室)をつくるなど、個に寄り添った指導を目指していることは良い。その結果、少しでも学校に来る生徒が増え、完全不登校が少なくなっていることも、よい傾向だと思う。昔と違い、学校に行かせなければならないと考える保護者ばかりではなくなっている。まったく登校しない状況が続くことは困るので、外部機関とも連携しながら、何らかのつながりを絶やさない取り組みを職員が協力して継続してもらいたい。

特別支援教育について

- ・来年度は特別支援学級の生徒が減少し、学級数も減少するとのことだが、普通学級に在籍しながら支援を必要とする生徒が増えると、かえって先生方の負担が増え、働き方改革にも影響することを心配する。生徒数減に伴う職員減もあると聞く。くれぐれも無理をしないで働いていただきたい。

記載責任者 竜王中学校学校運営協議会 会長 川口 優一

